

# 掛川市・袋井市 新病院建設だより



August 2010 Vol.5

## 建設基本設計まとまる

＊両市民の思いをつなげる地域医療の再生拠点へ＊



※イメージ図（患者用駐車場上空から病院を望む）



※イメージ図（正面玄関からホスピタルモールを望む）

新病院の基本設計（建設工事に必要な設計の基本方針）がまとまりました。新病院は、掛川市下俣・長谷地内にある13・7haの土地に、地上8階建てで建てられます。周りを山々の緑で囲まれた自然豊かで静かな環境は、患者さんに癒しと落ち着きを与える快適な療養環境となるでしょう。病院本体は、患者さんやスタッフの動線に配慮した機能的な形となっています。関係のある部門同士を近くに配置し、人々が交差しないで効率よく動けるよう設計されています。また、低層階（1～3階）の外來部門は雁行型、高層階（4階）の病棟は三角形と、中東遠地域のシンボリックな存在となりうる外観も特徴の一つです。病院内部は、正面玄関を入ると、ホスピタルモールと呼ばれる開放感あふれる空間が広がり、行き先が一目で分かる配置となっています。自然の光を取り入れた院内は明るく、患者さんやスタッフにとって安らぎを感じるよう配慮されています。

※雁行型…空を飛ぶ雁の隊列のような形のこと

### 市民説明会を開催しました

6月12日（土）夕ローラ（袋井市）で、6月15日には掛川市生涯学習センターで、新病院建設に関する市民説明会を開催しました。市民説明会では、新病院長予定者である掛川病院の名倉院長が新病院の役割について説明しました。



掛川会場（6月15日）

新病院は、中東遠地域の基幹病院として、脳卒中や心筋梗塞、救急医療などに対応できる体制を整備し、市民の皆様へ安全安心な医療を提供すると述べました。



袋井会場（6月12日）

事務局からは、本年3月に策定された「新病院建設基本計画」と6月末まで作業が進められていた「新病院建設基本設計」について説明いたしました。会場には両市で約600人の方が来場し、熱心に耳を傾けていました。また、浜松医科大学前学長の寺尾俊彦氏による基調講演も行われました。

#### ●基調講演

「地域医療の課題と新病院への期待」

講師：寺尾 俊彦氏

（浜松医科大学前学長）



静岡県内には多くの自治体病院があり、それが医師不足を招いている一因です。掛川市と袋井市が2つの市立病院を統合し、中東遠地域の基幹病院として急性期医療を担うことで、多くの医師が集まることを期待しています。新病院では、特に救急医療に力を入れ、脳卒中や心筋梗塞など発症してから治療までの時間が生死に大きな影響を与える病気について、迅速に対応できる体制を整えてほしいと思います。全国初の市立病院同士の統合として注目を浴びる中、先駆的な例となり、地域住民の命を守るすばらしい病院となることを期待しています。

#### ●市民の声

市民説明会において、市民の皆様からいただいたご意見を一部紹介します。

- Q1** 新病院への交通アクセスは便利になるのか。
- A1** 来院される方が不便にならないよう、2つの市が協力し、交通体系を考えたいと思います。
- Q2** 病棟の形が珍しいが、三角形であるメリットは何か。
- A2** 三角形とすることで、どの病室にもパランスの良い採光が確保できます。また、三角形の中央にスタッフシェーションを設けることで、スタッフがどの病室へも行きやすく、目が届きやすい配置となっています。
- Q3** 病院の建設費はどのくらいか。
- A3** 現段階では、建物本体120億円のほか、医療機器購入費、土地購入費など、総額で225億円程度を想定しています。

市民説明会の詳細は、組合ホームページをご覧ください。



### 掛川市・袋井市新病院建設事務組合

〒436-0043 掛川市大池2798番地の11（掛川市勤労者福祉会館内）  
TEL.0537-61-2700 FAX.0537-61-2701  
ホームページアドレス <http://www.shinbyoinkyogi.jp>  
Eメールアドレス [byoken@city.kakegawa.shizuoka.jp](mailto:byoken@city.kakegawa.shizuoka.jp)

平成22年8月1日発行

この広報紙は資源リサイクル推進のため、再生紙を利用しています。

# 基本設計の概要

## ●設計方針

### 機能性・快適性

中東遠地域の基幹病院として、将来にわたり機能を発揮できる病院へ

### 地域環境への配慮

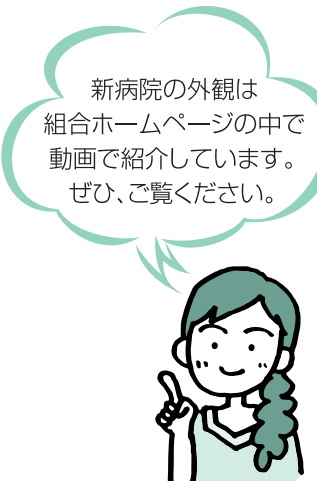
両市民の思いをつなげ、地域医療再生の核となる病院へ

### 柔軟性・経済性・安全性

地球環境に配慮し、持続可能性を追求する病院へ

## 具休策

- 1 既存の地形・緑地を最大限残すことで、丘陵地の緑と建物の一体化を実現します。
- 2 敷地の高低差を生かした二段造成により、来院者と物流の動線分離を図り、安全で機能的なアプローチを確保します。
- 3 効率的な急性期医療を実現するため、機能連携に配慮した高密度で集約的なレイアウト配置とします。
- 4 病室からの眺望への配慮と、機能的な看護体制を可能にした三角形の病棟を採用します。



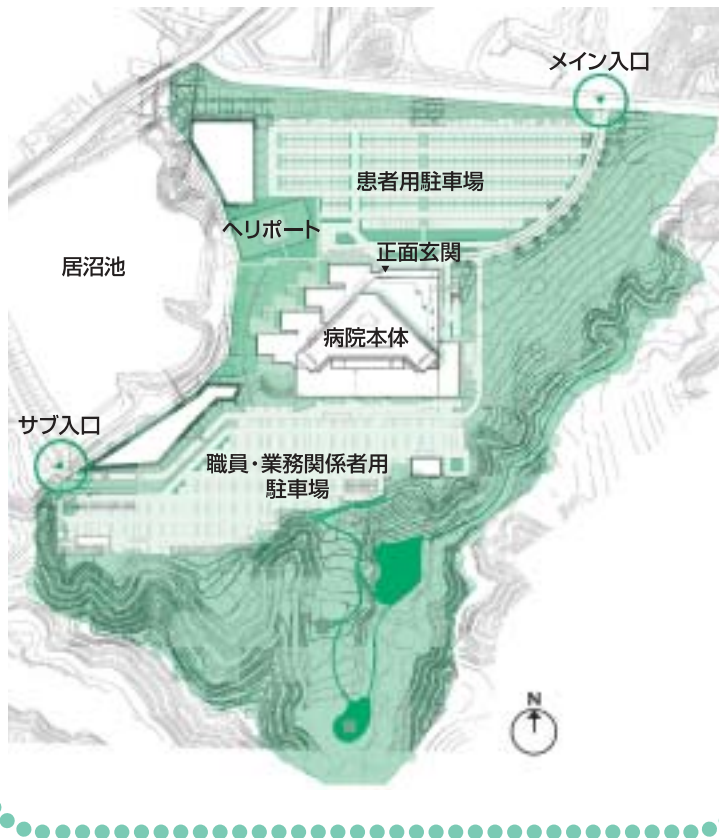
## ●土地利用計画

患者さんや救急車が入るメイン入口は北側に、主に職員や業務関係者が入るサブ入口は、西側に設けます。

また、敷地内ではメイン入口とサブ入口を結ぶ連絡通路を整備します。

病院の建物は、敷地中央の地盤の良い位置に配置し、その北側に患者用駐車場730台分、南側には職員・業務関係者用駐車場を770台分配置します。

## 土地利用計画図



患者用駐車場の西側には、ヘリポートを設け、緊急時や災害時に利用します。

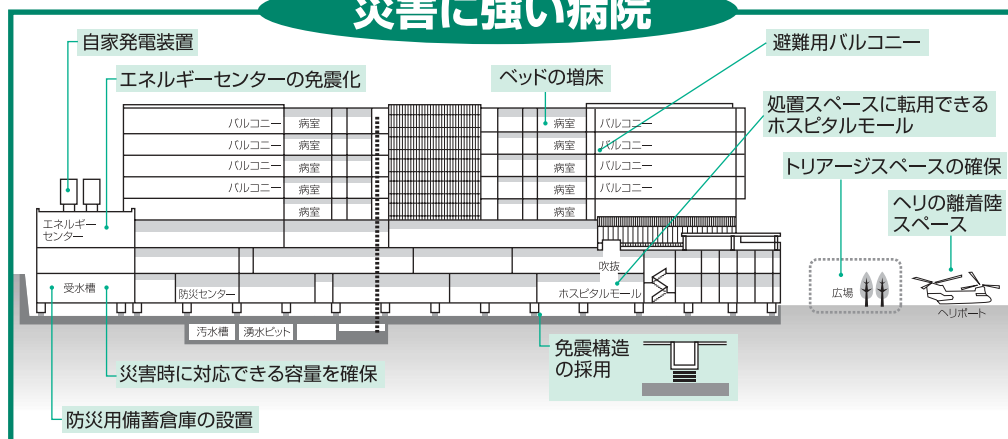
新病院建設予定地は、なだらかな北斜面で、南側より北側が低くなっています。この地形の高低差を利用し、敷地は南側の職員・業務関係者用駐車場が一段高い二段造成となります。

このため建物の出入口は、患者さんや一般来院者は北側1階部分、職員や物品搬入などは南側2階部分となります。

## ●防災計画

災害拠点病院として、地震をはじめとする災害時にも、医療機能を継続して使用できるようにします。

## 災害に強い病院



## ●配置計画

病院内部の主な部門を紹介します。

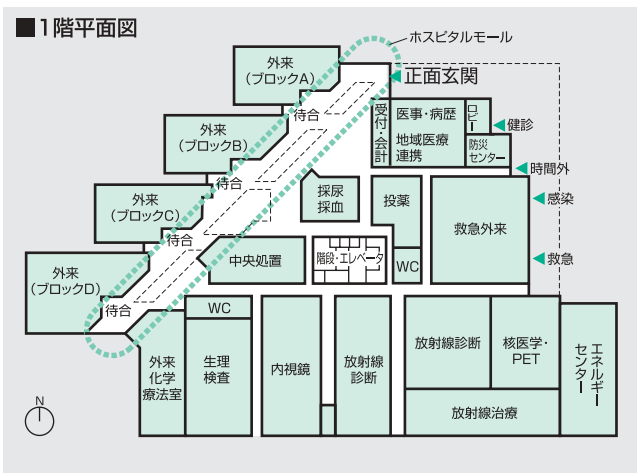
### 1階

正面玄関を入ると、斜め45度にはホスピタルモールと呼ばれる広々とした空間が広がっています。

ホスピタルモールを軸に受付や会計窓口があり、西側には雁行型の外来ブロックが並んでいます。

外来部門の対面は、採血や点滴をする部門や放射線などの検査部門を配置し、外来患者さんに迅速で効率的な診療ができるよう配慮しました。

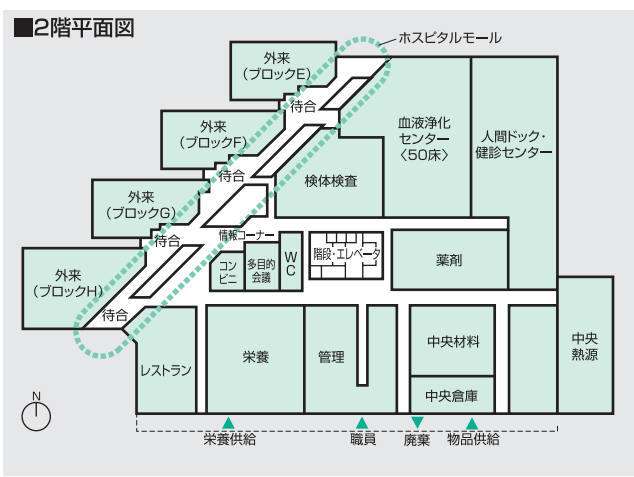
また、新病院の重要な機能の一つである救急部門は、進入路から最も近い位置に設けました。



### 2階

1階と同じようにホスピタルモールの西側に外来ブロックを配置しました。

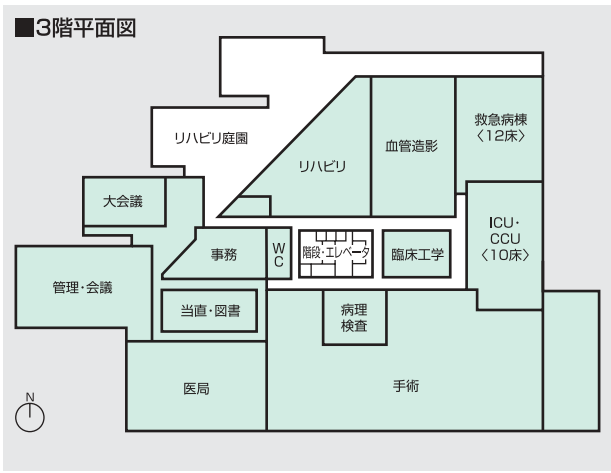
また、人工透析を行う血液浄化センターや人間ドック・健診センターを配置するほか、コンビニやレストランも設けています。



### 3階

病院の中核機能であるICU(集中治療室)や救急病棟、カテーテル治療を行う血管造影室や手術室を配置し、緊急の重症患者の受け入れがスムーズにできるように配置しました。

また、機能回復訓練を行うリハビリ部門を配置し、屋外にリハビリ庭園を設けました。

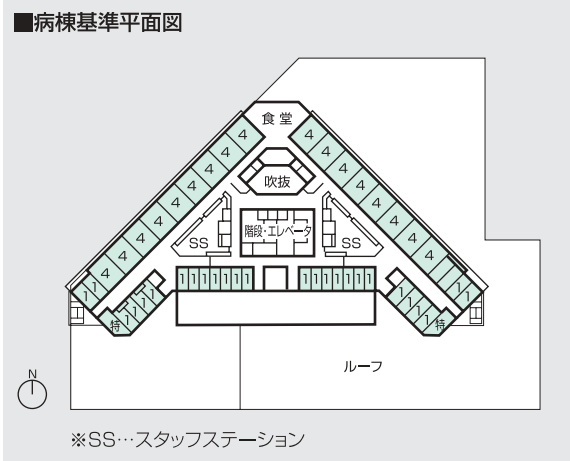


### 4~8階

入院するための施設(病棟)です。一つの階に東西二つの病棟を配置します。

病棟は三角形で西は袋井市街、東は掛川市街を望むことができます。

病室は全体で500床を確保し、そのうち個室が約30%、その他は4床室を想定しています。



## 造成工事の安全祈願祭が行われました

新病院建設予定地を含めた旧ゴルフ場用地の造成工事の安全祈願祭が6月24日に行われました。

当日は、工事の無事を願い、発注者である掛川市土地開発公社をはじめ、掛川市・袋井市の関係者約120名が出席しました。

新病院建設予定地の造成工事は、新病院の建設が始まる平成23年夏頃まで続きます。



ゆったりとした落ち着いた空間を確保します。窓の外には掛川や袋井の市街地のほか南アルプスなどの山並みが望めます。

